

キャリア開発学科「フィールドワーク」の展開 — BEVI を新たな視点にして —

藤 島 淑 恵 岩 田 京 子

Development of "Fieldwork" in the Department of Career Development: A New Perspective through BEVI

Toshie Fujishima Kyoko Iwata

(2021年12月1日受理)

1. はじめに

1964年に中村学園短期大学（1957年に中村栄養短期大学として開学）に増設された家政科は、1998年に中村学園大学短期大学部家政科、2001年に中村学園大学短期大学部家政経済科に名称変更し、2007年に現在のキャリア開発学科（以下、本学科）に改組した。本学科はキャリア教育やビジネス分野の科目にも力を入れ、働く場あるいは生活する場でのさまざまな関わりの中で、自己の価値を形成し、それぞれの場において貢献し得る、人間性豊かな人材を養成している。

令和3年度「学校基本調査」によると、短期大学は88%程度を女子学生が占めている。本学科は前身が家政科であることが影響してか、2018年度までは女子学生が100%を占める年度がほとんどであった。しかし、2019年度は137人中5人、2020年度は143人中11人、2021年度は150人中5人の男子学生が入学している。男子学生の進路希望は就職に加えて編入学も強い。これまでとは異なる進路指導が必要になっている。

短期大学では様々な分野の教育が行われているが、とりわけ、幼稚園教諭や保育士、栄養士や介護福祉士など、地域の専門的職業人の養成の面で重要な役割を担っている¹。中村学園大学短期大学部においても、本学科以外は「食物栄養学科」と「幼児保育学科」であり、専門職人材を育成している。本学科の進学希望者は高い就職率が志望理由であることが多いが、高校卒業時に専門的な職業を選択するには至らないことが理由である学生も多い。入学時に就きたい職種等の明確な目標がある学生は一部であり、「将来就きたい仕事が決まっておらず、幅広い職業に就くことができるため」という志望動機が多い。そのため、企業に就職をしたいが、どのような職業

に就きたいかはっきりしていない学生が大半である。

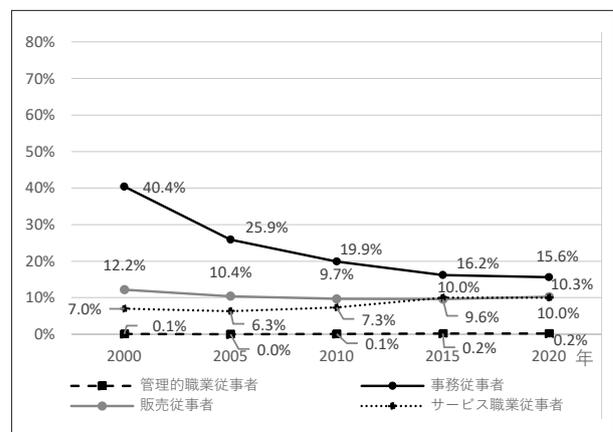
また、本学科の卒業生が就く職業はこれまで事務職が多かったが、求人動向とともに、卒業生が就く職種に変化がみられる。今後デジタルトランスフォーメーションが推進され、その変化のスピードはさらに速いと考えると、求人のある職種はどうなるのだろうか懸念される。

本学科は2020年度より編入学にも力を入れているが、本稿では短期大学の女子学生の職業の変化および本学科の学生の特徴を踏まえ、企業そして社会で求められる人材を育成するための教育の可能性について考察する。

2. 短期大学生が就職する職種

図1は、「学校基本調査」の「卒業後の状況調査」で、短期大学の女子学生が就職した職種の一部を2000年から2020年までの20年間の5年ごとにグラフにしたものである。特徴として、事務職の割合が減少していることが挙

図1 職業別 就職者数（短期大学全体）



文部科学省「学校基本調査」より筆者作成

執筆紹介：中村学園大学短期大学部キャリア開発学科

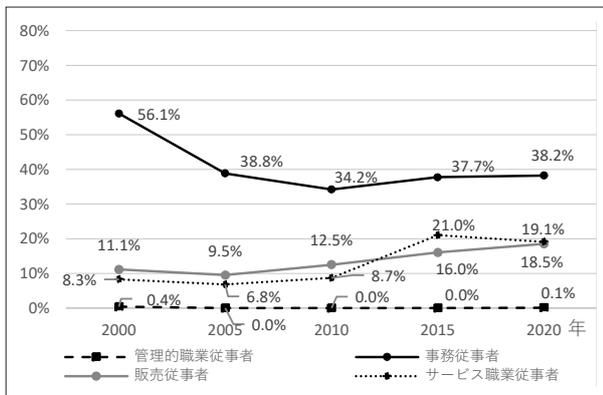
別刷請求先：藤島淑恵 〒814-0198 福岡市城南区別府5-7-1 E-mail: t-fuji@nakamura-u.ac.jp

¹ 文部科学省「短期大学について」https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/tandai/index.htm

げられる。短期大学全体では、2000年に40.4%であったが、2005年は25.9%、2010年は19.9%と半分以下となり、2020年は15.6%である。

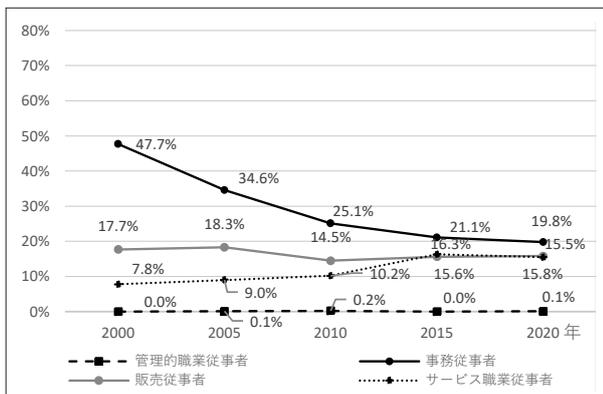
短期大学は専門職人材を育成していることから、学科によって職種の割合が異なると考えられる。そのため、本学科の教育に近いであろう社会学系（図2）と家政学系（図3）の学科ごと割合を確認したところ、社会科学系の事務従事者は2000年が56.1%であったが、2010年に34.2%まで減少している。増加している年もあるが2020年38.2%と減少傾向である。家政学系においても2000年が47.7%であったが、2020年は19.8%に減少している。

図2 職業別 就職者数（社会学系）



文部科学省「学校基本調査」より筆者作成

図3 職業別 就職者数（家政学系）



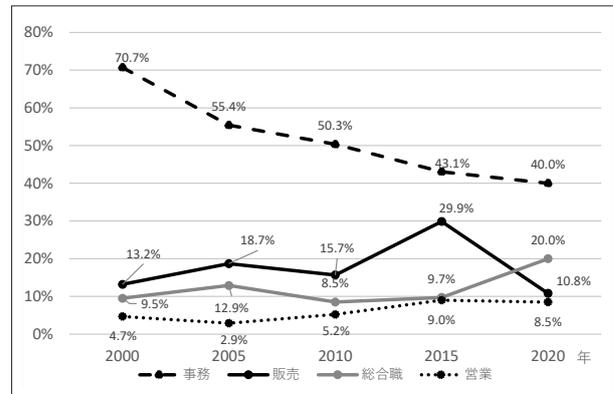
文部科学省「学校基本調査」より筆者作成

業界の景気等により一概に比較することができないが、販売職は、短期大学全体では10%前後、家政学系では15%前後で推移している。しかし、社会学系は2000年の11.1%より増加傾向にあり、2020年は19.3%である。サービス職は、全体ではこの20年で3%程度の増加であるが、社会学系、家政学系では増加傾向であると考えられる。

学校基本調査の職種分類と異なるが、図4は2000年から2020年までに、本学科の卒業生が事務職、販売職、総

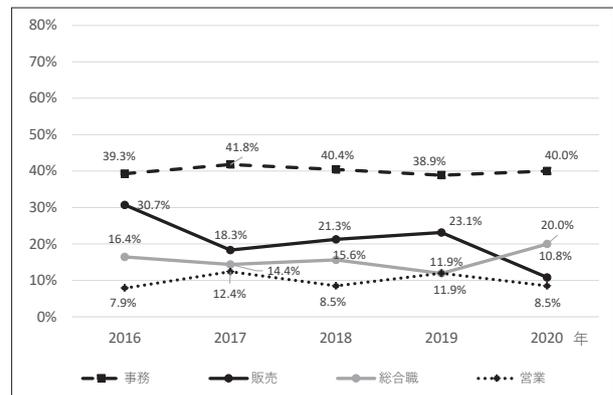
合職、営業職に就いた割合の5年ごとの推移、図5は2016年から2020年の5年間の推移である。

図4 本学科の職種の推移（5年ごと）



卒業生の就職先情報より筆者作成

図5 本学科の職種の推移（2016年から2020年）



卒業生の就職先情報より筆者作成

本学科においてもこの20年で事務職は減少していることがわかる。その理由としては、企業が女性活用に積極的になり、より高度で広範囲な業務に従事する職種で募集するようになったことがあげられる。例えば、本学科の2000年3月卒業生のうち28名が地方銀行に「事務職」として就職したが、近年では「事務職」という名称は消え、「総合職」あるいは「地域限定総合職」での採用となっている。女子学生も「長く働ける企業に就職したい」「将来、管理職として活躍したい」というキャリア志向が目立つようになり、「事務職」以上の活躍を目指すようになったこともあるだろう。

職種は企業からの求人の際に提示されているものであり、同じ仕事内容でも区分が異なることがある。1985年に成立した男女雇用機会均等法により、労働者の募集及び採用において性別を理由とする差別が禁止され、「総合職」「一般職」といったコース別雇用管理制度を導入する企業が増えた。「事務職」は「一般職」であるが、営業は「総合職」で募集する企業と「営業職」で募集す

る企業がある。近年、コース別管理制度自体を廃止している企業もあるため、一概に比較はできないが、本学科の場合、営業や総合職での採用が増加している。特に2020年は総合職での就職が増加している。

一方で、非正規雇用、アウトソーシングなどにより、「事務職」での正社員での採用が減少していることから、一般職希望であっても、別の職種に就く学生が存在する可能性も考えられる。

販売職については、増減がありながらも増加傾向にあったものが、2020年は減少している。これは新型コロナウイルスの影響が大きいと考えられるが、販売職においても将来的にキャリアを伸ばすことができる総合職での採用が増加している可能性もありえる。

これらの短期大学卒業後の職種の変化においては、就職活動時期の変化も影響していると考えられる。1997年、日本経営者団体連盟²は就職協定の廃止を決定し、「内定日を10月1日以降とする」という「大学卒業予定者・大学院修士課程修了予定者等の採用選考に関する企業の倫理憲章倫理憲章（通称 倫理憲章）」を定めた。2002年卒採用からは、「卒業・修了学年に達しない学生に対して、選考活動を行うことは厳に慎む」と追記され、さらに2004年卒採用に関する倫理憲章の公表後、倫理憲章の趣旨に賛同した企業による「倫理憲章の趣旨実現をめざす共同宣言」が発表された。これを受け、多くの企業が4年生の4月から選考活動を開始するようになった³。

しかし、年々広報活動が前倒しされ、実質的に10月1日から始まるようになったため、2011年に「倫理憲章」

が改定され、2013年卒以降は、「広報活動開始が12月1日、選考活動開始4月1日」というスケジュールとなった。当時、短期大学生においては、1年生の12月に広報解禁となるものの、選考は大学生の選考が一段落した後に行われ、就職活動が始まるのは2年生になってからであった。

2013年に政府の要請に基づき、経団連は「採用選考に関する指針」において、学生が本分である学業に専念する十分な時間を確保するため、採用選考活動の早期開始を自粛、2016年卒採用は広報活動開始3月1日、選考活動開始は8月1日となった。翌2017年卒からは選考活動開始が6月1日に変更されている。実際には3月1日に広報が開始され、6月1日以前に選考が行われることも多かったが、大学生は就職活動時期が以前より遅くなることとなった。それと同時に、短期大学生の選考を大学生と同時に実施する企業が増え、結果として短期大学生の就職活動時期は早期化、1年生の3月から始まるようになった（図6）。

さらに近年は「ワンデイインターンシップ」という名称で、実質は会社説明会が開催されることがあり、参加が選考に影響することもあることから、本学科でも2021年度より1年生の夏休みから参加することを推奨している。

この就職活動時期の変化により、「短期大学卒」という募集要件は減少した。「大学卒」であることが条件である企業はあるものの、短期大学生も大学生と一緒に選考を受けられるようになったことも、職業の選択肢の変

図6 「倫理憲章」および「採用に関する指針」と選考のスケジュール例

		大学3年・短期大学1年										大学4年・短期大学2年								
		7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月			
1997年	倫理憲章																	内定		
2004年～2012年	倫理憲章																	内定		
2013年～2015年	採用に関する指針																	内定		
	大学生のスケジュール例											広報				選考				内定式
2013年～2015年	短期大学生のスケジュール例											広報				選考				内定式
	面接試験/内々定																	内定式		
2016年	採用に関する指針																	内定		
	大学生・短期大学生のスケジュール例											広報				選考				内定式
2017年～	採用に関する指針																	内定		
	大学生・短期大学生のスケジュール例	インターンシップ（ワンデイインターンシップという名称の会社説明会等を含む）										広報				選考				内定式
												広報/説明会/エントリー/筆記試験				面接試験/内々定				内定式

注1) 2018年に経団連が2021年卒以降の採用選考に関する指針を策定しないことを決定、それを受け政府は「就職・採用活動日程に関する考え方」を発表し、「2021年卒以降も、当面はこれまでの就活ルールに沿った採用スケジュールを踏襲すること」を経済団体等に対し要請している。

注2) 全ての企業が上記の選考スケジュールとは限らない。また10月以降も募集状況に応じ、採用活動は行われる。

² 2002年に経済団体連合会と統合し「日本経済団体連合会（通称 経団連）」となった

³ 就職みらい研究所「就職白書2019」

化に影響していると考えられる。

雇用（求人）状況、就職活動の日程、企業に求められる人材の変化など、学生の就職に関わる外的要因が大きく変わってきている。そうした変化のなかで、学生の教育や進路選択の支援をどのようにすればよいのか、早急な検討が必要である。

3. BEVI による本学科の学生の特徴

教育・キャリア形成支援を組織的に考えていく場合に、まずは本学科の学生を理解する必要がある。これまで「学生実態調査」や諸々のアンケート調査で、学生の声を聞いてきたが、ここでは、客観的データを用いて本学科学生の特徴を明らかにしたい。使用するのは Belief, Events, and Values Inventory (BEVI) である。

BEVIは教育、研究、からリーダーシップ・プログラムやメンタル・ヘルスに至るまで、様々な場面で利用することのできる分析ツールである。25年以上にわたる米国内また国際的な研究と実践、心理学的特性を基盤とし、信念・価値また人生の出来事についての質問を行い、その回答から、「誰が、何をなぜまたどのような状況で学習したのか」を明らかにする。BEVIを活用することで、学習・成長・変化のプロセスや成果を理解し、それらを促進させることができる⁴。

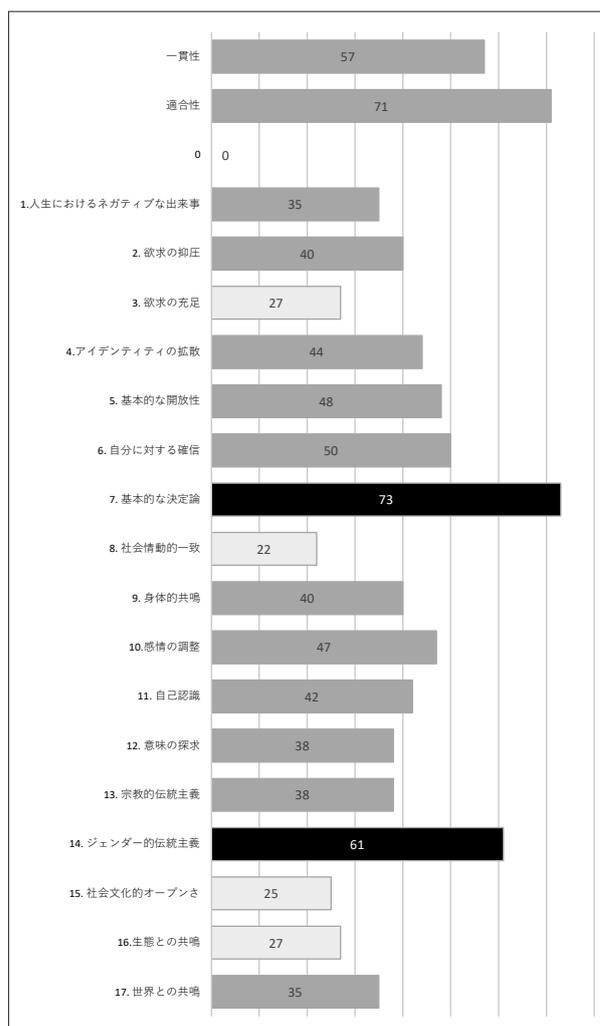
中村学園大学・中村学園大学短期大学部では2020年度にBEVI日本語版を導入した。きっかけは、海外研修や長期留学プログラムの成果を客観的に測定するツールが必要となり、信頼性、利便性、発展性そして経済性も考えてBEVIが選ばれた。当初は、海外で学んだ学生のみを対象にしていたが、さまざまな活動の評価にも使用することから、本学科においては、2021年度は入学者150名全員を対象にBEVIを行った。実施時期は2021年4月である。必修科目の中で受験についての説明を行い、136名（男子学生5名、女子学生131名）より回答を得た。また、同年5月に広島大学の西谷元教授より、2021年5月オンラインにてレポートの分析および解説をしていただいた。

図7は、全体プロフィール (Aggregate Profile) である。棒グラフの中の数字は集団に付けられたスコア(1~100)で、当該グループの回答を統計的にBEVIのスケールに反映したものである。

中央値より高いのは、

- ・「7 基本的な決定論」が73パーセンタイル、
 - ・「14 ジェンダー的伝統主義」が61パーセンタイル
- である。基本的決定論は「差異／行動について簡潔な説

図7 全体プロフィール



明を好む、人は変わらない／強者が生き残ると信じている」といった批判的思考であり、適度に低いほうがよいとされている。ジェンダー的伝統主義は「男性と女性はある型にはまるよう創られている、伝統的／単純なジェンダー観やジェンダーの役割を好む」という信条、価値観である。

中央値より低い項目が多いが、中でも20パーセンタイル以上差があるのは、

- ・「3 欲求の充足（経験・欲求・感情に対してオープン、自分・他者・より広い世界に対する気遣い／思いやり）」が27パーセンタイル、
- ・「8 社会情動的一致（自己、他者、より広い世界を認識している／オープンである、思慮深く、実用主義、意思が固い、自立の必要性を認める一方で弱者を気遣うなど世界を白黒では捉えない）」22パーセンタイル
- ・「15 社会的オープンさ（文化、経済、教育、環境、

⁴ BEVI Japanese 「BEVIについて」 <https://jp.thebevi.com/about/>

ジェンダー / 国際関係, 政治の分野におけるさまざまな行動, 政策及び実践について進歩的 / オープンである)」25パーセンタイル,

- ・「16 生態との共鳴 (環境 / 持続可能性の問題に深く関与している。地球 / 自然界の将来を懸念している)」27パーセンタイルである。

図8は、デシルプロフィール (Decile Profile) で10段階の各得点範囲に入る回答者の割合が示されている。全体プロフィールにおいて、注目した項目については、それぞれの回答に偏りがあることがわかる。「7 基本的な決定論」だが、7割近い学生が8から10にいる。これはYes-No, はっきりした単一の結論などを好む学生が多いことを表している。「14 ジェンダー的伝統主義」は男女の固定的な役割分担 (男は仕事, 女は家庭, 育児は女性の役割など) に違和感を覚えない, 肯定的に考える学生が多いことを示している。

また、「8 社会情動的一致」も1と2で6割近くになる。社会情動的一致とは、思慮深く、意思が固い、自立の必要性を認める一方で弱者を気遣うなど世界を白黒では捉えないということだが、その数値が低い学生が多い。

「8 社会情動的一致」と相関が高いと言われているのが、「15 社会文化的オープンさ」と「17 世界との

共鳴」である。「社会文化的オープンさ」とは文化, 経済, 教育, 環境, ジェンダー / 国際関係, 政治の分野におけるさまざまな行動, 政策及び実践について進歩的 / オープンであることを指す。「世界との共鳴」はさまざまな個人, 集団, 言語, 文化について学ぶこと / 出会うことを努力している。グローバル社会への関与を望んでいることを表している。

「15 社会文化的オープンさ」に関しては, 9, 10の高い数値はまったくおらず, 1~4で8割近くに達する。「17 世界との共鳴」は「文化的オープンさ」よりは少し高い数値の学生もいるが, 全体的に低い数値の学生が多い。

以上を総括すると, 本学科の学生は物事を伝統的, 固定的に考える傾向が強く, 積極的にさまざまな人々や文化に触れることに及び腰の消極的なタイプの学生が多いことを示唆している。

こうした学生たちの傾向は進路にも大きく影響すると考えられる。伝統的な性役割を固定的に受け入れている学生は「これは女性の仕事」「あれは男性の仕事」と思い込み, その固定観念に沿った就職活動, 進路選択をしがちとなる。また, さまざまな物事に興味をもったり, 異文化も含めて多様な人々との交流に消極的な学生たちは, 自分の進路の範囲も狭くなりがちで, 将来の選択肢

図8 デシルプロフィール

Decile	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
一貫性	0%	0%	0%	8.09%	9.56%	40.44%	28.68%	11.03%	1.47%	0.74%
適合性	0%	0%	0%	0%	5.15%	11.76%	22.06%	30.88%	24.26%	5.88%
1.人生におけるネガティブな出来事	8.82%	22.79%	15.44%	16.91%	13.24%	5.15%	8.09%	3.68%	2.94%	2.94%
2.欲求の抑圧	8.09%	19.12%	13.97%	13.24%	12.50%	9.56%	6.62%	5.88%	8.09%	2.94%
3.欲求の充足	22.06%	27.94%	15.44%	5.88%	7.35%	11.76%	3.68%	2.94%	2.94%	0%
4.アイデンティティの拡散	9.56%	17.65%	6.62%	13.24%	3.68%	21.32%	8.09%	5.88%	8.09%	5.88%
5.基本的な開放性	8.82%	12.50%	11.03%	7.35%	10.29%	9.56%	12.50%	8.82%	12.50%	6.62%
6.自分に対する確信	0%	8.82%	11.03%	15.44%	16.91%	12.50%	11.76%	13.24%	6.62%	3.68%
7.基本的な決定論	0.74%	2.21%	3.68%	4.41%	4.41%	8.09%	9.56%	15.44%	18.38%	33.09%
8.社会情動的一致	36.76%	22.79%	11.03%	11.03%	6.62%	5.88%	1.47%	2.94%	1.47%	0%
9.身体的共鳴	6.62%	16.91%	11.03%	14.71%	16.91%	13.24%	8.82%	5.15%	3.68%	2.94%
10.感情の調整	3.68%	11.76%	13.24%	12.50%	11.76%	12.50%	12.50%	10.29%	10.29%	1.47%
11.自己認識	9.56%	19.12%	8.82%	13.97%	8.82%	9.56%	8.09%	9.56%	5.88%	6.62%
12.意味の探求	11.03%	18.38%	17.65%	9.56%	8.82%	10.29%	6.62%	10.29%	5.88%	1.47%
13.宗教的伝統主義	0.74%	11.03%	19.12%	33.82%	11.76%	8.82%	9.56%	2.21%	2.21%	0.74%
14.ジェンダー的伝統主義	1.47%	4.41%	5.88%	6.62%	12.50%	12.50%	14.71%	14.71%	15.44%	11.76%
15.社会文化的オープンさ	19.85%	25.74%	22.06%	10.29%	8.09%	6.62%	5.15%	2.21%	0%	0%
16.生態との共鳴	23.53%	16.18%	22.79%	14.71%	11.03%	2.94%	4.41%	1.47%	1.47%	1.47%
17.世界との共鳴	17.65%	22.79%	10.29%	11.03%	5.88%	3.68%	13.97%	9.56%	5.15%	0%
Decile	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

を限定してしまう。就職活動だけではなく、卒業後の人生にも影響を及ぼすだろう。BEVIの分析結果を参考にしながら、教育活動や進路支援を考えていきたい。

4. アクティブラーニングによる学習効果

BEVI でわかったような固定的な性別役割分担意識、地域社会や世界に対する意識、異なる文化や人々への興味・関心や交流などの開放的態度などは、教室の中の授業だけで身につけることは難しい。やはり、教室外のリアルな体験が必要である。

本学科では2018年度より、高次のアクティブラーニング(以下、AL)を行う「フィールドワーク分野」を新設し、2021年度からは、「海外研修Ⅰ～Ⅳ(各1単位)」「フィールドワークⅠ・Ⅱ(各1単位)」の2科目(合計6単位)を教育課程に配置している。さらに、プロジェクト研究(テーマ:「地域と連携した教育プログラムの開発-インターンシップとフィールドワーク」2019年~2021年度)において、「フィールドワークⅠ・Ⅱ」の単位付与を前提に、地域や企業、行政、NPO法人、ボランティア団体などと連携し、本学科の高次のALとしてふさわしいプログラムを開発することを目的とした研究を進めている。

2019年度は韓国人留学生のマナー研修および交流イベントの企画運営を行った9名、企業主催の子育てイベントでブース出展の企画運営を行った8名、企業主催のイベントでのボランティア活動等で9名の単位認定を行った。

2020年度は新型コロナウイルスの影響により、前年度まで行っていたイベントにおける活動ができず、その他の活動にも大きな制限があったものの、永進専門大学(韓国・大邱)の学生とICTを活用した交流で文化を紹介することで違いを学び、最終的に福岡の観光をテーマとした動画の制作を行う活動で2020年3月卒業の5名の単位認定を行った。また、38名の学生が、大学近隣の地区で市より認可された「地域猫活動」への協力を行っており、現在も活動継続中である。地域猫活動では、地域の方への理解を得るためのチラシ制作とポスティング、アンケート調査、サイトおよびSNSによる情報発信などを行っている。

2021年度は地域猫活動のサポートに加え、フードロス解消および地域の方との交流を目的としたUR都市機構での野菜販売イベントの企画運営、一般社団法人The Organic Daysが年に2回開催しているオーガニックマルシェの企画運営のサポートなど、感染防止対策に努めつつ可能な範囲で行っているところである。野菜販売のイベントは24名、オーガニックマルシェは8名の申し込

みがあった。別途1日のみのイベントスタッフ(蔓延防止等重点措置の適用により延期)には、20人の募集に対し、26人の申し込みがあった。今後、昨年度行った地域猫活動、韓国の大学のICTを利用した活動も募集予定であるため、2021年度に活動する学生はさらに増加することが予想される。

募集の際、活動の志望動機を書かせているが、そこには「地域貢献したい」「普段できないことに挑戦したい」「普段接することがない年代の方と関わりたい」「成長したい」「企画を経験したい」といった記述が目立つ。学生たちもさまざまなフィールドワークを通して、チャレンジする場を求めたり、人間的成長欲求やスキルの上達、経験を求めているのである。そうした学生たちの希望を叶える、あるいは、潜在的に希望する学生の背中を押すことが必要であろう。

5. 終わりに

新型コロナウイルスの影響でボランティア活動などの募集が少なく、自粛等で学外での活動ができにくい現状では仕方ないことなのだが、これまでを考えても、学生自ら学外の活動に参加するのは少数であった。感覚的に「何かしたいが自分では動けない」「与えられたことはきちんとうる」学生が多い印象であったが、今回のBEVIの受験結果でわかった本学科の学生の特徴「固定概念が強く保守的である」ことが、学生たちの行動に影響していると考えられる。

学外のアクティブラーニングである「フィールドワーク」に参加した学生は、様々な立場の大人と接し、他者と協同することで、多様な価値観に触れ、気づきや成長をしていると感じられる。就職先についても一般職以外に就いた卒業生が多い印象があるが、もともと積極的な学生が活動に参加した可能性が高いため、今後は定期的にBEVIを受験することで、学生の成長を検証したい。また、BEVIの分析結果を基に「フィールドワーク」を企画・検証したり、あるいは、その他の授業にも活かすことができる。

「フィールドワーク」を希望する学生はもちろんのこと、さまざまな理由で参加することのできない学生にも活動の場を与えられる教育体制が本学科には必要と考える。

謝 辞

本研究は、令和2年(2020年)度中村学園大学・中村学園大学短期大学部プロジェクト研究「地域と連携した教育プログラムの開発-インターンシップとフィールド

ワーク」(研究代表者：藤島淑恵)で行われた研究成果の一部です。

BEVIの導入および本学科学生の結果について解説くださった広島大学の西谷元教授に厚く御礼申し上げます。

参考文献

西谷元 (2016) 「留学効果の客観的測定・プログラムの質保証 -The Beliefs, Events, and Values Inventoru (BEVI-j)-」 『高等教育研究業書』 3 (137), PP.45-70

藤島淑恵, 岩田京子 (2020) 「フィールドワーク活動における ICT 活用の可能性」 『中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要』 第53号, PP.151-155

藤島淑恵 (2019) 「キャリア開発学科の「インターンシップⅡ」に関する実践報告」 『中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要』 第52号, PP.235-242

厚生労働省「雇用均等基本調査(女性雇用管理基本調査)」
URL:<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00450281&tstat=000001051898>

最終検索日 2021/8/12

就職みらい研究所「就職白書2019」
URL:https://shushokumirai.recruit.co.jp/wp-content/uploads/2019/05/hakusyo2019_01-56_0507up.pdf

最終検索日 2021/8/12

中村学園大学 中村学園大学短期大学部「大学案内」
URL:<https://www.nakamura-u.ac.jp/outline/basicinfo/history.html>

最終検索日 2021/8/12

内閣官房「就職・採用活動に関する要請」
URL:https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/shushoku_katsudou_yousei/index.html

最終検索日 2021/8/12

一般社団法人 日本経済団体連合会
URL:<https://www.keidanren.or.jp/profile/enkaku.html>

最終検索日 2021/8/12

BEVI
URL:<https://jp.thebevi.com/about/>

最終検索日 2021/8/12

文部科学省「学校基本調査」
URL:<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400001&tstat=000001011528>

最終検索日 2021/8/12